

社会資本整備審議会道路分科会 平成 26 年度第 1 回中国地方小委員会
《議事要旨・議事録》

1. 日 時

平成 26 年 6 月 2 日(月)15:00～17:50

2. 場 所

広島合同庁舎 2 号館

3. 出席者

< 委員 >

◎ ^{ふじわら}藤原 ^{あきまさ}章正 広島大学大学院 国際協力研究科 教授

^{いけもと}池本 ^{よしこ}良子 (株)スリーエッセンス 代表取締役

^{かまくら}鎌倉 ^{ひであき}秀章 中国経済連合会 専務理事

^{こいけ}小池 ^{あつし}淳司 神戸大学大学院 工学研究科 教授

^{こじま}小嶋 ^{みつのぶ}光信 両備グループ代表

※敬称略 ◎は委員長

4. 議 題

(1) 計画段階評価について

山陰道(はわい～大栄東伯)

(2) 優先区間の絞り込みについて

山陰道(須子～萩)

山陰道(三隅～小月)

5. 結論

「はわい～大栄東伯」間の計画段階評価、「須子～萩」、「三隅～小月」間の優先区間の絞り込みについて、本日の意見を反映してアンケートを実行することに異存はない。また全国的なネットワークから見た位置付けについては引き続き整理を進める。

6. 委員からの主な意見

○全体に共通する内容

- ・国土の形成軸を担うような道路の整備にあたっては、均一性・均質性の確保が重要。
- ・広域的なネットワークの視点から、山陰道、国道9号の位置づけを整理することが必要。
- ・下関から京都の区間に無料の高速道路網ができることは非常に意味があり、中小企業の活動や地域の生活・経済に必ず効果がある。この点を丁寧に示し、この地域に高速道路が必要であることを整理した上で検討を進めるべき。
- ・アンケート結果の活用方法を明確にするとともに、情報をわかりやすく示してアンケートを実施した方がよい。

○計画段階評価について 山陰道(はわい～大栄東伯)

- ・住民ニーズも非常に大切だと思うが、ネットワークに対する基本的な考え方を国として打ち出さないといけない。
- ・必要なところは自動車専用道路で整備し、一部は現在のものを上手く使っていく案が費用的には良いと思うが、金額面でマイナス面の影響も加味した費用対効果がわかれば、ある程度判断できるのではないか。
- ・建設費用に違いがあるので、広域的な効果の説明も必要である。
- ・地域の経済、文化、産業と道路は分断されないほうが良い。自動車専用道路では通過交通だけになってしまうのではないか。
- ・住民の方と通過交通を含めた広域の方と、両方を対象にアンケートを行うことで、国全体としての機能と、地域の機能の両方を確認する必要がある。

○優先区間の絞り込みについて 山陰道(須子～萩)(三隅～小月)

- ・この間の課題は分かるし整備する必要性は理解できるが、なぜこの間に広域的なネットワークとしての山陰道を整備する必要があるということを整理する必要がある。(2区間共通)
- ・現在の交通量だけをみると、この間に高速道路を整備する優先順位は決して高くない。(2区間共通)
- ・アンケートを行うと、現在、課題があって困っているところが優先順位が高くなる。需要が高いところ、整備しやすいところから進めるのではなく、ネットワーク全体の完成を実現するために、戦略的な進め方をすべき。(2区間共通)
- ・地元の方が感じられている具体的な課題箇所をアンケートで聞いてはどうか。(2区間共通)
- ・道路と並行するJRにも留意し、両方とも寸断されたときの被害の甚大さも意識して検討をするべき。(須子～萩)
- ・アンケートにおいて示す現道の課題等について、伝えたいことを少し絞り込んで、わかりやすくしてはどうか。(三隅～小月)

以上